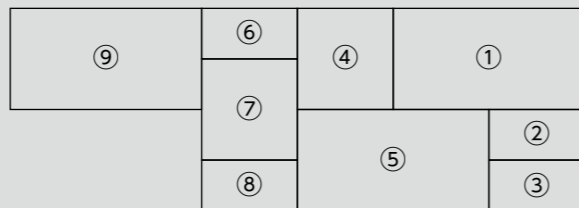


初めての福津市二斉防災訓練

# 備えあれば憂いなし

広報ふくつ10月号で、11月7日の福津市二斉防災訓練に向けた特集を組みました。福津市で初めての二斉防災訓練に、地域が、自主防災組織が、そして皆さんがどのように取り組むのか、当日いくつかの地域で取材してきました。初期消火活動や避難行動要支援者の支援など、訓練に取り組む場面と参加者の声を、一部ですが紹介します。また、当日取材をしていた新聞記者の声も紹介します。

写真で見る防災訓練



①自衛隊の炊き出し訓練 ②手づくりの防災頭巾をかぶって避難所に ③避難の合図として玄関に目印 ④目が見えない人の介助を学ぶ ⑤地域の人が保育園児を避難誘導 ⑥要支援者と避難訓練 ⑦車いすは段差に注意 ⑧立ち込める煙を想定し煙道体験 ⑨放水体験

## 経験も 備えの一つ

初めて消火器を使ってみました。経験することも普段の備えの一つだと思いました。

(K・Eさん 女性)

## 防災意識が 高くない

私たちの地域の参加人数を見ると、防災意識があまり高くないのかなという気がしました。少し残念です。

(Y・Iさん 女性)

## 温かいものが うれしかった

自衛隊による炊き出しなどで

## もっと近くで 訓練してもらえたら

足が悪く、遠くに行くのが難しい。もっと近くの公園などで訓練があればと思います。

(M・Mさん 女性)

## 防災に限らず 人とのつながりを

みんなで何とかしようという意識を感じました。防災に限らず、人とのつながりが地域をよくするのではないのでしょうか。

(N・Hさん 男性)

## 訓練を 続けてもらいたい

私たちの地域は東日本大震災

温かいものが食べられることを知りました。避難したときに安心できます。地域がもっととまれば、自分たちで炊き出しができるのでしょけれど。

(Y・Sさん 女性)

## 子どもたちにも 参加させたい

自主防災組織の役員皆さんや消防団の皆さんには感謝しています。ありがとうございます。できることならですが、子どもたちも参加できるような体験型の訓練も取り入れてもらえれば、もっと楽しくなるのではと思います。しかし、それだと大変ですね。お手伝いもします。

(C・Hさん 女性)

◆ ◆ 自分が命は自分で守る、これが防災の基本の自助です。しかし、大きな災害が起きたときには、自助だけでは対応できません。隣近所や地域での助け合いである共助がとても重要です。その共助の要になるのが自主防災組織です。自主防災組織を結成していない自治会や地域では、共助について一度、話し合ってみてはいかがでしょうか。

(S・Hさん 男性)

## この人に聞く

西日本新聞社宗像支局 記者 今井 知可子さん

## ありがたい 保育園児避難訓練

福岡県西方沖地震発生時、1歳の娘と6階の自宅にいました。娘を抱えて外階段を逃げながら、あまりの準備のなさに「これからどこでどう過ごせばいいだろう」と途方に暮れました。

避難訓練を取材して、当たり前ですが普段の備えは大事だと痛感しました。訓練に慣れてしまうことへの批判はあるでしょうが、知識ゼロでウロウロするのが一番怖い。保育園児を住民が協力して避難させている訓練を見て、自分も子どもたちを預けて働いていただけに、とても心強く思いました。ただ平日昼間など、実践に近い形の訓練も必要ではないかと思いました。

災害時は、煩わしいでしょうが取材も殺到します。報道機関から逆に情報を聞き出すこともできますので、どこでどのような取材をし、どのような状況だったかなど、確認した方がいいと思います。



◀花見地区の避難訓練に密着取材していた今井知可子さん



▲緊急時に水やタオルなどを入れた非常持出袋を準備しておきましょう